

## 新収資料紹介

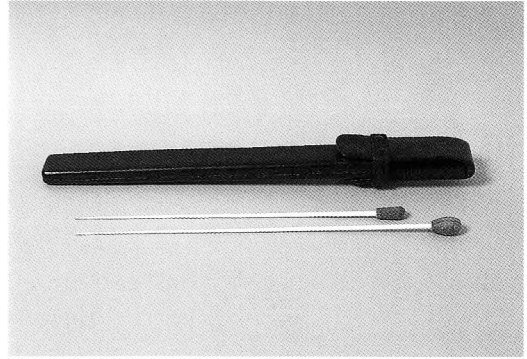
# 石丸寛氏の指揮棒

宇野 慶

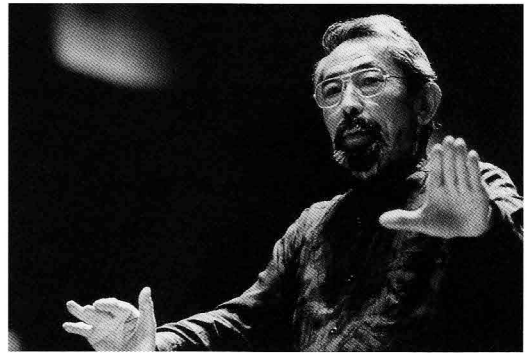
SHŪ

当館は本年4月9日に指揮者、故石丸寛氏関係資料を受贈しました。資料の内訳はスコアー、演奏会プログラム、自筆草稿、書簡、図書、絵画、衣裳など多岐にわたっています。石丸氏と苦楽を共にした2本の指揮棒は黒革のケースのなかに整然とおさまられています。幾度ものコンサートにおいて、今にも折れそうな程の繊細な指揮棒を使って、石丸氏がどれ程の感動を聴衆に与えてきたかを想像しますと胸があつくなります。

大正11（1922）年に中国青島に生まれた石丸氏は、幼い時から音楽と美術に親しみました。昭和13（1938）年より石丸氏は玉川の旧制中学で学びました。在学中はコーラス部に所属し、指揮者ローゼンシュトックの指導のもと、第九演奏会にも参加しております。指揮者として大成した後は「ゴールドブレンドコンサート」等を通して全国のアマチュアオーケストラの育成に尽力しました。世界の桧舞台で活躍することよりも、クラシック音楽の魅力を草の根に広げることを好んだ石丸氏の姿勢は「ピラミッドの土台石になれ」という小原國芳の言葉を、身をもって実践したかのようです。石丸氏は本学の「第九演奏会」の指揮も1982年から1997年まで12回務めました。



石丸寛氏の指揮棒（手前 長さ32.2cm）



石丸寛氏

（うの けい／教育博物館助手）

### 【石丸寛氏略歴】

大正11（1922）年、中国青島（チンタオ）に生まれる。昭和13（1938）年に帰国。旧制玉川中学校に転入。昭和19（1944）年、文化学院大学部芸術科卒、管弦楽法と指揮法を山田一雄に師事。

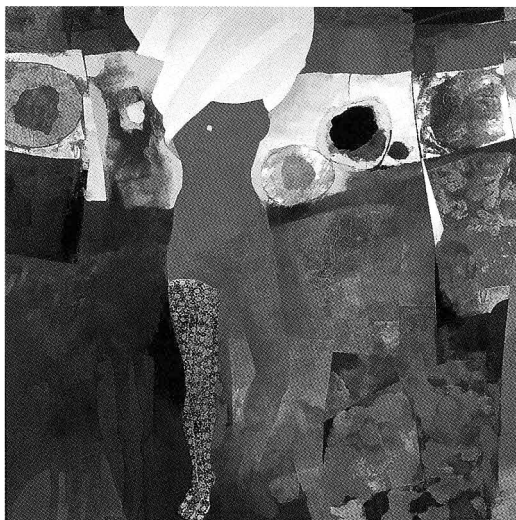
昭和28（1953）年、九州交響楽団を創設、初代常任指揮者を務める。その後、N響、日フィル、読響、東フィル、大阪フィル、名古屋フィルなどの交響楽団を指揮。1982年から1997年まで計12回にわたって本学の第九演奏会も指揮した。九州交響楽団音楽監督・常務理事、東京交響楽団評議員、玉川大学客員教授、九州交響楽団永久名誉音楽監督。平成10（1998）年逝去。

本年6月15日に、故山田貞實氏（元文学部芸術学科教授）の絵画作品（油彩画6点、水墨画7点）および関連資料を山田美代夫人からご寄贈いただきました。山田氏は独立美術協会を中心に活動をし、同時に「玉雲」の号で水墨画の世界においても著名な作家です。昭和28（1953）年から本学に勤務され、昭和39（1964）年の芸術学科創設に尽力されました。以後、昭和57（1982）年に退職されるまで、30年にわたって教育にたずさわるとともに、その間国際美術教育会議日本代表委員、日本美術教育学会理事、色彩教育研究会評議委員として国内外の美術教育交流推進にも貢献されています。

制作された油彩画や水墨画はそれぞれ作品集として刊行されていますが、氏の業績でもうひとつ付け加えねばならないことは美術分野での研究です。その成果は多数の水墨画や造形の技法書、そして美術教育関連の著書などに結びついています。今回、作品と一緒に著書類約400冊の寄贈も受けており、これらは作品と同様今後本館の活動の中で有効に活用させていただきたいと考えています。（かきざきひろたか／教育博物館准教授）



山田貞實氏

夏晨 キャンバスに油彩  
162.0×162.3cm 1974年

### 【山田貞實氏略歴】

大正4（1915）年、岐阜県加茂郡下米田村（現美濃加茂市下米田町）に生まれ、東京美術学校（現東京藝術大学）で油彩画を小林万吉、南薫造、伊原宇三郎、日本画を結城素明、川崎小虎、川合玉堂、書を比田井天来、比田井小琴などから学ぶ。昭和13（1938）年に独立美術協会展に入選（以後連続出品）し、昭和36（1961）年に第21回独立展〈変貌A〉〈変貌B〉で独立賞を受賞し、昭和37（1962）年会員に推挙される。平成元（1989）年美濃加茂市の特別文化功労賞、平成7（1995）年独立美術協会功労賞を受賞。また水墨画の分野では、全日本水墨画会会長、日本墨絵会会長を務める。昭和60（1985）年文部大臣賞を受賞。昭和62（1987）年内閣総理大臣賞を受賞。パブリック・コレクションとしては岐阜県美術館、美濃加茂市民ミュージアム、佐久市立近代美術館、飯田市美術博物館、タイ工科大学などに作品が収蔵されている。平成12（2000）年逝去。